

令和7年度 秋田県立矢島高等学校  
第2回学校運営協議会 議事録

【日時・場所】

令和7年10月3日（金）14：10～15：10

秋田県立矢島高等学校 大会議室

【出席者】

1 学校運営協議会委員

大井 永吉 【天寿酒造株式会社代表取締役社長】  
佐々木 正純 【矢島スポーツ協会会長】  
茂木 雅人 【本海流坂之下番楽講中】  
佐藤 俊弘 【矢島高等学校拓道同窓会会長】  
三浦 秀人 【矢島まちづくり協議会会長】  
滝野 由紀夫 【元由利本荘市役所矢島総合支所長】  
赤川 忍 【矢島保育園職員】  
佐々木 光浩 【矢島小学校校長】  
東海林 俊介 【矢島中学校校長】  
佐藤 恵介 【矢島高等学校PTA会長】  
藤原 淳 【矢島高等学校校長】

2 矢島高等学校〔事務局〕

小松 隆行 【教頭】  
内田 隆仁 【事務長】  
高橋 晃二 【教諭（総務部主任・WG1委員長）】  
猪股 憲一 【教諭（特別活動部主任・WG2委員長）】  
畠山 圭亮 【教諭（教務部主任・WG3委員長）】  
黒木 育子 【教諭（進路指導主事）】  
大坂 充孝 【教諭（生徒指導主事）】  
村井 良裕 【教諭（商業科主任・YBP主担当）】  
黒木 仁美 【養護教諭（保健主事）】

※ 学校運営協議会の前に各ワーキング・グループでの協議を実施

## 【議事概要】

### 1 出席者紹介

小松教頭が、出席者を紹介した。

### 2 校長より

本日はお忙しい中、学校運営協議会に参加していただき、誠にありがとうございます。また、日頃より本校の教育活動につきまして、御尽力、御協力、御理解をいただき、あわせて感謝申し上げます。

これまでの生徒の活躍や学校の取組について、紹介したいと思います。今年度も地域創造コースビジネス系の課題研究であるやしまブランディングプロジェクト（YBP）の取組で、7月中旬の秋田県大会で2年連続で優勝し、8月の東北大会に6大会連続で出場しました。東北大会には各県2校ずつ全部で12校が参加しましたが、本校は5位という過去最高の成績を収めることができました。東北大会出場に当たり、多くの方から御支援いただき、ありがとうございました。大会のための発表ではなく、できるだけ地域の方や中学生の皆さん、中高生の保護者の皆様に発表を聞いていただきたいと思います。そのような機会を相談しながら設けていきたいと考えていますので、その際はよろしく申し上げます。

昨年度は1人も参加できなかった中央支部の新人大会に、今年は柔道、バドミントン、卓球が出場します。柔道は大会が終わり、個人戦で3位という成績を収めました。本校に柔道部はありませんが、活動したいという生徒の希望があり、学校でも支援しながら大会に参加させました。この生徒は全県の新人大会にも出場予定です。

7月の鳥海山登山は、職員だけでは運営が厳しくなっていて、地元の山岳会の方はもちろんですが、昨年度まで本校に在職した先生や事務職員に声をかけ、御協力いただきました。おかげで、事故もなく、9名の生徒が山頂まで到達し、生徒は非常に頑張ったと思えました。まだまだ生徒の活躍がありますが、時間の関係で以上とさせていただきます。

先日、新しい生徒会役員の立会演説会がありました。新生徒会役員は、この後の任命式を経てスタートしますが、立会演説会の中で特に印象に残ったのが、「矢島高校は過小評価されている、私たちは頑張って評価を高めていきたい」という力強い言葉でした。立会演説会の言葉を我々が支えながら、矢島高校の評価を高めていきたいと考えております。

本校に関わる大きな動きとしては、秋田県高等学校総合整備計画の改定案が公表され、矢島高校を1学年1学級の単独校又は地域校とすると変更されまし

た。単独校であれば、現在の校歌や校章は、全て引き続き使用することができます。地域の皆様の声が、県の方に届いたのではないかと、その結果として見直しや変更につながったのではないかと思います。本当に地域の皆様に感謝申し上げるとともに、この変更を我々も喜んでいきたいと考えています。

今年度より地域みらい留学生を受け入れることになりました。6月と8月の2回、本校の生徒及び由利本荘市職員と一緒に東京で学校説明会を行ってきました。生徒は本当に一生懸命頑張ってくれて、2回で50名の保護者や中学生に説明をしました。その結果、全部で4名の中学生に、オープンスクールに参加していただきました。東京2名、神奈川1名、愛知1名、うち3名が中学3年生です。この後、由利本荘市の職員と連絡を取りながら、出願までつなげることができればと考えています。我々としては、出願がゴールではなく、出願して入学してからが本当の始まりだと思っております。入学後に想像できないような大変なことが多数あるかもしれませんが、学校運営協議会や地域の方の力を借りながら、アドバイスを受けながら、県外の生徒を迎え入れたいと思いますので、その際はあらためて御相談したいと思っております。参加した本校の生徒ですが、喜びだけではなく、自己肯定感といいますか自信をもって業務を遂行してくれました。東京の会場から戻ってきた生徒の顔が変わったのではないと思うくらい、一回りも二回りも大きくなって帰ってきてくれました。

さらに、今年度は、来年度実施する100周年記念事業に向けて、本格的な準備がスタートする年となります。この会の後に実行委員会を開き、本格的にスタートしたいと思っております。同窓会の皆様、保護者の皆様には御協力をよろしくお願ひします。

3年生の就職活動も本格的にスタートし、内定をいただく生徒がいる一方、残念ながら不採用という結果をいただく生徒もいます。この後、進学希望者を対象とした入学試験が始まりますが、学校としては、学年部と進路指導部が連携しながら、全ての生徒の進路の実現に向けて最後までサポートしていきたいと考えています。

今月18日の土曜日には、本校の学校祭が行われます。時間がありましたら、ぜひ生徒の頑張りを見に来ていただければと思います。2年生の修学旅行は、11月10日から13日まで、3泊4日で関西方面を予定しています。

最後になりますが、この後の協議では、各ワーキング・グループからの報告があります。繰り返しになりますが、委員の皆様からは、様々な角度で忌憚のない御意見をいただきたいと思っております。限られた時間ですが、本日はどうかよろしくお願ひします。

### 3 協議

#### ① 各ワーキング・グループからの報告

各ワーキング・グループの事務局担当者が、資料に基づき、協議内容や取組状況について、報告を行った。

#### ② その他

各委員から意見・感想が述べられた。

藤原校長 : 県外の中学生への矢島の魅力の発信について、由利本荘市の職員に相談した。その中で、由利高原鉄道で放課後に就業体験をして、それから運転士になるという話があった。地域みらい留学のオープンスクールに参加した4名は、由利高原鉄道に興味をもっていて、車両見学の時間を設けたところ、非常に喜んでいて。今までは由利高原鉄道との連携は考えていなかったが、地元企業との連携もあるのではないかと考えている。天寿酒造からは、土・日曜日にアルバイトで発酵文化を学ばせることもできるという話をいただいた。

公民館では、多くの講習会やイベントを行っている。学校でも、地域の料理やお菓子づくりの講習会、歴史について学ぶ会などを開催すれば、地域のお年寄りが参加し、新たな交流ができるのではないかと考えている。

佐々木(正)委員 : 自動車学校で、高齢者講習と高校生の卒業間近の入校が重なり、お互い予約が取れなくなっているという状況がニュースになっていた。県の教育委員会や校長会で対応を検討したことはあるか。今はどの職場でも普通免許が必要になるので、早く対応してもらいたい。

藤原校長 : 自動車学校への入校については、各学校に任せられている。本校では、進路決定を優先していて、進路が決まってから免許を取ることになっている。3月に卒業した時点で免許が必要な生徒もいるので、その場合は考慮している。保護者同伴の説明会もあり、説明会が終わってから入校を許可している。

大坂教諭 : 由利本荘・にかほ地区の6高校で申し合わせがあり、10

月1日以降に入校手続を開始することになっているが、それ以外については、各学校が基準を定めている。就職が決まった生徒から入校するが、就職が決まっていない生徒については、状況に応じて、学年部と相談しながら対応している。

佐々木(正)委員：今年度の3月末をもって、羽後交通のバス路線の一部が廃止になる。代替のコミュニティバスを由利本荘市は検討しているようだが、決定はしていない。影響を受ける生徒への支援を検討すべきではないか。

藤原校長：バスを利用して通学している生徒はいない。

佐々木(正)委員：保小中高連携について、保育園児と高校生が同じ活動をすることは、ストレスの心配がある。行事の日程を合わせる作業は大変だが、決定した以上はしっかり実行してほしい。

茂木委員：矢島の歴史や成り立ちに関わる学習が以前より幅広く行われている点を評価している。小学校4年生を対象に坂之下番楽についての授業を行った。その時の資料があるので、必要であれば提供する。

佐藤(俊)委員：各ワーキング・グループの内容は重なる部分があるので、連携して進める必要がある。YBPは社会に出てからも役立つ活動であり、製造業においても参考になるため、学校として継続して頑張してほしい。

三浦委員：まずは小中高で触れ合う時間を多くつくり、可能であれば保育園も含め、地域を巻き込んだ運動会などの企画も進めることができればいいのではないか。そういう面で力を発揮する人が地域にいたので、相談をしてもらいたい。

滝野委員：生徒の数が少なくなっているが、地域みらい留学という事業が始まり、矢島高校の魅力が増してくれば非常にありがたい。矢島の特色を生かしながら、生徒に学びの場を提供してもらいたい。

赤川委員 : 保育園も小中高連携の中に入れていただきありがたい。場所が離れているが、以前より高校生がボランティアやインターンシップで来てくれるようになり、園児も喜んでいる。保育園としても、矢島の子どもたちの教育に微力ながらお力添えできればと考えている。

佐々木(光)委員 : 小中高の子どもたちの連携を進めていくとともに、それに関わる教職員も効果的に研修を行い、しっかり行事に取り組むことができればと考えている。地域の方の力を借りながら、地域に根差した活動を行っていきたい。

東海林委員 : YBPは賞を取って注目されているが、普段の授業でも、生徒は地域のことを考えながら、多くのことを学んでいる。生徒の自信を支えるためにも、矢島高校の素晴らしさや価値観をもっとPRすべきである。

佐藤(恵)委員 : 生徒の保護者の立場として、先生方や地域の方に生徒は愛されている、目をかけてもらっているとあらためて感じた。微力ではあるが、今後も学校に協力していきたい。

大井会長 : 先日、ワインの産地であるフランスのサンテミリオンを訪問した。矢島より人口は少ないが、建物や歴史、地元産品の物語、そして住民の自信が、多くの観光客をひきつけている。矢島も地域に対する自信をもち、もっと自由に考えれば人を呼べる可能性がある。

最後に、藤原校長が、今後の学校運営協議会の予定について、説明を行った。

#### 4 諸連絡 なし